

(別紙5)

調査報告書

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日	平成 21 年 2月 23日
調査実施の時間	開始 9 時50分 ~ 終了 14時 50分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム ぶなの森 _____ (福島県)
-------------------	----------------------------------

評価調査員の氏名	氏名 _____ 大野 恒夫 _____
	氏名 _____ 熊谷 まゆみ _____
事業所側対応者	職名 _____ 管理者 _____
	氏名 _____ 菅野 真由美 _____ ヒアリングを行った 職員(2人)

※記入方法

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

※項目番号について

- 外部評価項目は30項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

〔認知症対応型共同生活介護用〕

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0770302644
法人名	医療法人ささうち内科クリニック
事業所名	グループホーム ぶなの森
所在地	郡山市八山田6丁目45 024-983-6355
評価機関名	会津医療生活協同組合
所在地	会津若松市東千石1-2-13
訪問調査日	平成21年2月23日

【情報提供票より】 (21年2月23日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年3月3日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤14人, 非常勤3人, 常勤換算7.88人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての 1, 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300 円		

(4) 利用者の概要 (2月23日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	5	要介護2	5
要介護3	6	要介護4	2
要介護5		要支援2	
年齢	平均 85.3 歳	最低 76 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 ささうち内科クリニック
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者に寄り添って、職員が後押しするような感じでのケアが行われている。調理、掃除など利用者が役割を持って暮らしており表情も明るい。家族会があり協力的で行事への参加も多く家族同士の交流がはかられている。母体法人が医療機関ということもあり医療連携がはかられており、利用者・家族に安心感を与えている。職員を育てる研修も充実しており、職員も意欲的である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	現状に即した介護計画の見直し、重度化や終末期に向けた方針の共有など、外部評価の結果を受けて、各委員会等で検討し、検討結果を全職員で話し合い、改善に向けて取り組み、重度化や終末期に向けた方針の共有などが改善された。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価項目を職員が分担して自己評価を行い、それを全職員で話し合っまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5)
	入退所の状況、ヒヤリハット報告、施設行事、外部評価結果等を報告し、意見交換を行っている。出された意見等は、サービスの向上に活かすように努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月2回、介護相談員を受け入れている。家族の訪問時等に意見、要望を出してもらうように努めている。家族会として災害時における家族の緊急連絡網を作ることを検討するなど運営に反映させるように努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、地区集会への参加、地域の清掃、芋煮会、盆踊りなどの地域活動に参加し、交流を深めている。地域の小学校の行事の参加したり、施設の行事に招待したり交流を継続している。

2. 調査報告書

主任調査員氏名 大野 恒夫 / 同行調査員氏名 熊谷 まゆみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの果たすべき役割を踏まえ、地域の住民やボランティア団体との交流をはかり、開放的な施設を目指すという運営方針を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員一人ひとりが運営方針を理解し、運営の安定をはかり、地域との関係を深めていくことを確認している。定例会議等で理念に基づく実践がされているか、対応の具体例をあげながら話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地区集会への参加、地域の清掃、芋煮会、盆踊りなど地域活動、行事に参加し交流を深めている。地域の小学校の行事に参加したり、施設の行事に招待したりして交流を継続、実施している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員が分担して自己評価を行い、それを全職員で話し合いまとめた。外部評価の結果を受けて、各ユニットリーダー、事故防止委員会等の各委員会で検討し、それを全職員で話し合い、具体的な改善にむけて取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に1回定期的に開催されている。施設側から入退所の状況、ヒヤリハット報告、行事、外部評価結果等を報告し、意見交換を行っている。出された意見はサービスの向上に活かすように努めている。		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	担当職員からの近況報告、広報紙、金銭管理報告等を毎月送付している。家族の訪問時には直近の様子、職員の異動等を報告し、身体状況が変化した場合等は随時報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に2回、介護相談員を受け入れている。家族の訪問時等に意見、要望等を出してもらうように努めている。家族会としても災害時における家族の緊急連絡網を作ることを検討するなど運営に反映させるように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は利用者との馴染みの関係に配慮し異動を最小限に抑えるようにしている。異動等があった場合は、利用者の生活歴や習慣等の引継ぎを担当者同士で行うと共に、リーダーからも情報提供を行うなど、ダメージを防ぐ配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修への参加については、年度始めに職員からのアンケートを取り、管理者が判断して段階に応じた参加をさせている。内部研修は学習委員会で年間計画をつくり、毎月1回実施している。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県グループホーム連絡協議会に加入して、2ヶ月1回開催される研修会等に毎回2名が参加するなど他事業所との交流する機会を作っている。</p>		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)</p>			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>料理当番制をとっているが、料理当番の時に、利用者がどういう料理を作ってきたのかを聞いたり、どう料理するか相談したりして、お互いに協働していく場面を設定するなど、共に支えあう関係作りを大切にしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントシートを活用して把握に努めると共に、日々の関わりに中で掴んだ思いや気づきはケース記録に記入し、スタッフ全員が目を通し、共有化をはかっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の関わりの中で利用者、家族の要望を聞き、センター方式を活用したアセスメント、カンファレンス、モニタリングを行い、主治医からの意見なども聞きながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月毎のモニタリング、3ヶ月毎のカンファレンスをもとに定期的な見直しを行っている。状態変化時には、家族、関係者等が話し合い現状に即した介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者・家族の希望するかかりつけ医となっている。家族同行の受診には情報提供を行い、受診結果の報告も受けている。利用者のほとんどが母体法人の医院を受診しており、週1回の往診体制が取られている。</p>		
19	47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化・終末期に対応する指針を作成し、家族に説明している。具体的に看取りを検討し、取り組んだが、結果として回復となった。重度化・終末期に対応する施設内研修で方針の共有化を図っている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>声かけや対応については、羞恥心に配慮した対応に心がけ、職員間で注意し合うようにしている。記録物など個人情報も適切に管理保管されている。</p>		
21	52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>起床や食事時間等もその人のペースで過ごせるようにしたり、レクも一律に参加を強いたりせず、自分の趣味を楽しむ人などがいたり、一人ひとりのペースを大切にするよう支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が出来ることを活かすよう支援しながら、調理、盛り付け、配膳、食事、後片付けなど職員と一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴が可能である。日勤帯の入浴が基本であるが、状況に応じて夜間浴も行っている。入浴が嫌いな利用者には、声かけの工夫をするなどして入浴支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	利用者一人ひとりが、調理、掃除、洗濯物たたみなど役割を持って暮らしている。外出を兼ねた買い物など気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	買い物や散歩など、なるべく利用者の希望に添って外出ができるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの前の道路の交通量が激しく安全確保のため玄関の施錠をしている。利用者・家族には、いつでも外出できることを伝え理解してもらっている。	○	日中鍵を掛けられ自由に外出できないことを利用者がどのように感じているか、見守り体制を含めて鍵をかけずに安全に過ごせる工夫をどうするか職員間で話し合っしてほしい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間想定を含め年6回の避難訓練を実施している。地域の人達の協力が得られるよう町内会に働きかけている。災害時に備えて非常食を準備している。	○	消防署の協力を得た避難訓練を実施し、問題点等の指導を受けてほしい。災害時に備えた非常食だけでは不十分なので、食料、飲料水、毛布等の物品の準備をしておいてほしい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量は把握されている。部外講師を招き、調理実習を兼ねて高齢者の栄養について内部研修を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の明るさ、音など適切に調節されている。花を飾ったり、利用者と一緒に作成した作品を飾ったりして季節感を感じてもらおうよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設で準備するのはベッドと寝具のみなので、使い慣れた家具などが持ち込まれている。趣味の作品や家族との写真などが飾られ、居心地よく過ごせるよう工夫されている。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

グループホーム ぶなの森

記入担当者名 管理者 菅野 真由美

評価結果に対する事業所の意見

なし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。